

CONTENTS

- P2～3
- 海老名の青空に大谷の“絆、
- P4～5
- 平成25年度施政方針
- P6～13
- 平成25年度予算概要
- P14～15
- 「えびな健康づくり講座」
受講生募集
- P16～17
- 各種案内
- P18～19
- 情報

■ クローズアップ！ ■

大谷四区親睦会有志の皆さん。作業後の笑顔が、地域の絆を感じさせてくれます。期間中は、破れたこいのぼりの補修作業などが毎日のように続くとのこと。大谷地区のこいのぼりは、5月5日の子どもの日まで楽しむことができます。



海老名の青空に大谷の“絆、

海老名の春の風物詩、大谷地区のこいのぼりを揚げる作業は、10メートルを超える支柱を立てるところから始まります。「セーのっ！ 引っ張れ！」声をかけ合いながら作業を行っているのは、大谷四区親睦会有志の皆さん。休耕田を活用しようと始めたこの取り組みは、ことしで12回目を数えます。

昔ながらの木の支柱を使ったこいのぼりは、昨今ではあまり見られないとのこと。こいのぼりは近隣から寄付されたもので、その数は1000匹以上。年々増えているそうです。

「海老名にもこんなものがあるんだなあ、すごいなあ」という声が届く。市内にはまだまだ田園も残っている。田園の中のこいのぼりは映えると思う。海老名の名物として、皆さんに楽しんでもらいたい」と、会長の児島さんは笑顔で話してくれました。大谷地区の心をつなぐこいのぼり。地域の絆は、ことしも海老名の空を泳いでいます。